



フッ化物によるむし歯予防は、家庭でのフッ素入り歯磨き剤の使用、歯科医院でのフッ化物歯面塗布に加えて、学校でフッ化物洗口を実施するとより効果が上がります。今回は、成果を上げている2つの地域を紹介します。

【牧之原市……平成17年に相良町・榛原町の合併により誕生】

昭和51年に1小学校で始まり、平成21年からは全ての幼稚園・保育園、小学校、中学校に広がりました。



①フッ化物洗口の実際

- ・小・中学校では、フッ化ナトリウム水溶液を用い、週1回洗口します。
- ・洗口液は、学校薬剤師が作って準備しています。
- ・休み時間を利用して、クラス揃って、1分間ぶくぶくうがいをします。
- ・洗口後は、30分間は飲食しないようにします。
- ・準備から片付けまで、およそ10～15分で済みます。
- ・費用は、1人年間約25円で、市が全額負担しています。
- ・学校歯科医が、健康な歯を保つ方法やフッ化物洗口の効果などを児童、保護者、教諭に情報提供しています。



クラス分の洗口ボトル
ポリコップ



担任の先生による洗口液の分配



1分間のブクブクうがい

②フッ化物洗口メンテナンス連絡会の開催（年1回）

市教育委員会主催で、幼保・小中学校の関係者、学校歯科医、学校薬剤師等により、フッ化物洗口の効果や実施上の課題について協議しています。

③学校からの報告

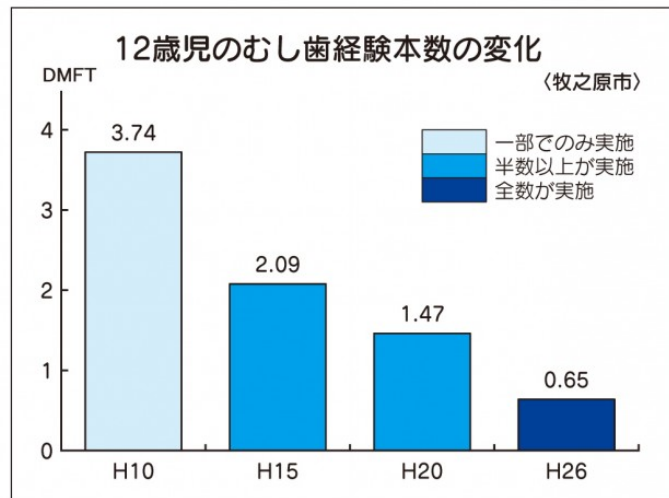
本校では、年度当初に児童・保護者から希望を取り、毎週1回のフッ化物洗口を実施しています。本年度の実施希望率は99.2%です。「水曜日をフッ素の日」と決め、定着しています。児童からの感想では、「少しにがいけど、むし歯が予防できる」という声が多く聞かれます。

本校のむし歯は、県平均と比べて、全学年で少ない状況です。これは、フッ化物洗口を実施している影響が大きいと思います。しかし、それだけではなく、口腔内の衛生保持や歯周病予防のために、学校歯科医によるブラッシング指導も行っています。学校保健委員会等を通して、児童だけではなく、家庭、教職員にも、正しい情報と効果的な予防方法を周知することで、児童のQOL（生活の質）を高めていきたいと思っています。



④予防効果

以前はむし歯の多い地域でしたが、実施施設数が増えるにつれてむし歯が減り、平成26年には県平均(0.8)より少なくなりました。



【川根本町……平成17年に中川根町・本川根町の合併により誕生】

平成11年に旧本川根町の保育園で始まり、平成17年に小学校に拡大し、現在では全ての幼稚園・保育園、小学校、中学校でフッ化物洗口を実施しています。



フッ化物洗口未実施の平成10年に比べて、全施設で実施している平成26年にはむし歯が激減し、県内で一番少ない町になりました。

